

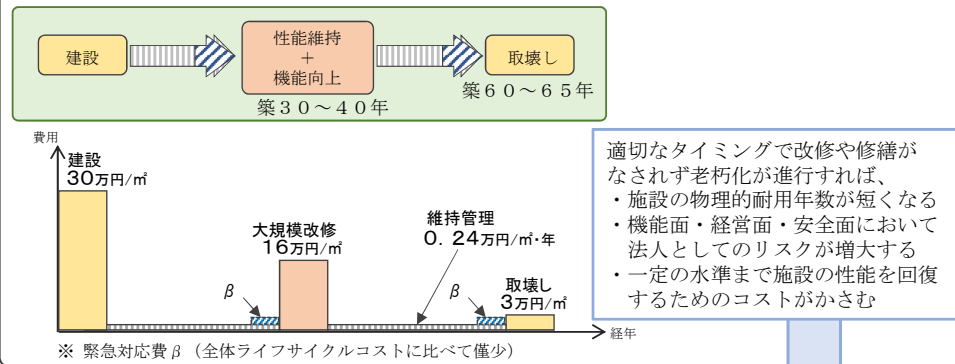
施設の長寿命化のコスト面の検証について ～建物単体モデルの試算～

1. 試算について

平成30年3月に整理した基本的な考え方を基に、施設を長寿命化した場合のコスト面での効果を検証する。具体的には、建物単体モデルについて、「従来のライフサイクル（60～65年改築）」及び「長寿命化のライフサイクル（80～100年改築）」の各ライフサイクルにおけるコストを試算し比較する。

2. 試算条件について

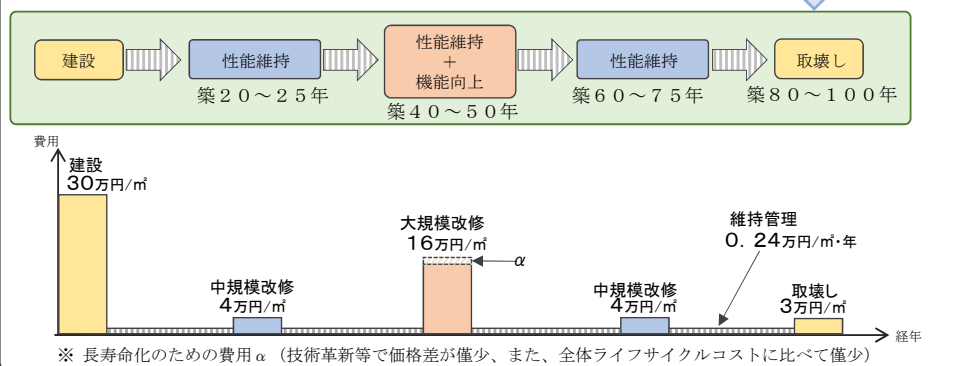
①従来のライフサイクルコスト



長寿命化を図る施設は

- ①耐用年数を100年程度(80～100年)を目標とする。
- ②20～25年程度の間隔で性能維持改修を実施。
- ③築50年程度(40～50年)で性能維持改修に合わせて機能向上改修を実施。

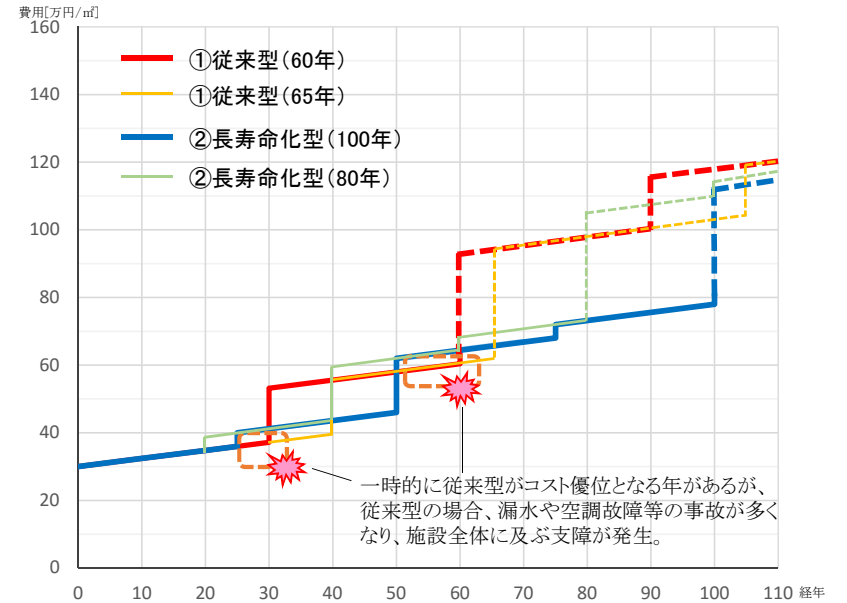
②長寿命化型のライフサイクルコスト



※ 試算条件は上記の通りとするが、実際の整備に際しては、キャンパス全体の整備方針や、各部位の老朽化状況等、様々な要因を踏まえ実施時期を判断することとなる。

3. 試算結果について

1. ライフサイクルコスト比較



2. 単年度当たりのコスト比較

- ① 従来型 : 9,900～10,600円/㎡・年 (65年) (60年)
- ② 長寿命化型 : 8,100～9,500円/㎡・年 (100年) (80年)
- (65→80年) ▲4% (60→100年) ▲24%